

耐震診断結果の見方

○ 耐震診断結果の表と附表の見方

以下の①から③の順番で確認して下さい。

■学校（小学校、中学校、特別支援学校）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	姫路市立〇〇小学校	姫路市〇〇	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	$Is/Is_0=1.1$ $C_{TV} \cdot S_D=0.4$	耐震改修	着手平成〇〇年〇月 完了平成〇〇年〇月	U=1.25

①

同じ名称の「耐震診断の方法」を探します。

②

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価」の数値を、附表に照らし合わせ確認します。
上の例の場合、結果「 $Is/Is_0=1.1$ 、 $C_{TV} \cdot S_D=0.4$ 」を区分に照らし合わせると、「 $1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TV} \cdot S_D$ 」の範囲となり、区分「Ⅲ」となります。
※Z、G、Uは、それぞれ1.0、1.0、1.25で、 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U=0.375$ となります。

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

	耐震診断の方法	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
2- (5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」（2001年版）	$Is/Is_0 < 0.5$ 又は $C_{TV} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TV} \cdot S_D$

- ③
- Ⅰ. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
Ⅱ. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
Ⅲ. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

安全性は、「Ⅰ」、「Ⅱ」、「Ⅲ」に区分されています。
評価の内容については、附表の下の区分から確認下さい

○ 用語の説明

- ・「 Is 」：構造体の耐震性能を表す指標（「 Is_0 」は判定基準となる目標値）。この値が大きいほど耐震性能が高い。
- ・「 $C_{TV} \cdot S_D$ 」：累積強度指標（ C_{TV} ）と形状指標（ S_D ）の積で求められる指標で、主に鉄筋コンクリート造の建物に適用される。
- ・「 q 」：保有水平耐力に係る指標（地震や風などの水平力に耐えることができる強さ）で、主に鉄骨造の建物に適用される。
- ・「 $Z \cdot G \cdot U$ （ $Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$ ）」：地域指標（Z）、地盤指標（G）、振動特性係数（ R_t ）、用途指標（U 建物の用途などによる補正係数。補正がない場合は1.0。）